ボランティアの支えで継続できる

前田さんは40年ほど前に、奥さんと手作りケーキの店「カルトカール」（旭川市豊岡）を開業。旭山動物園売店で売られているどうぶつクッキーなどの人気商品もあります。

その前田さんがお店を始めて5年ほど過ぎた30代半ばのころ、雑誌の特集記事を読んだのがきっかけでトライアスロンを始めました。「それまで運動はほとんどゼロ」だったのに、バイクを買いウエアをそろえ、仕事の空き時間を見つけてトレーニングに励み、道内外の大会に出場。

■きっかけは忠別湖トライアスロン

それが縁でトライアスロン仲間に誘われて「大雪山忠別湖トライアスロンinひがしかわ」（2016年に第10回で終了）の立ち上げ、運営に携わり、参加者に喜んでもらえるイベント運営の面白さに目覚めたといいます。

「どちらかといえば、普通の道路を走るランニング大会よりは、（地図やコンパスを使って山野の指定されたポイントを通る時間や数を競うオリエンテーリングレースやロゲイニングなど、自然豊かな中でのスポーツに惹かれる）ため、忠別湖トライアスロンと並行して、仲間内でトレイルランの催しも小規模で開いていましたが、本業の後継者に息子さんが育ってきたことから、カムイの杜などトレイルランイベントに10年ほど前から、本格的に取り組むようになったそうです。

昨年の中止で10回目の記念大会が今年に延びた「スイートガールズラン」は2010年、知人から東京・お台場で女性だけのランイベント「ランガール☆ナイト」が開かれるという情報を聞き大会を視察。走るだけでなくコスメブースやアフターパーティーでも女性パワーで盛り上がるという発想に、ぜひ北海道でもとお得意のスイーツを軸に開催しました。

2018年に始めた天塩岳速登競争は、まだ道内に頂上まで登りきる時間を競う快速登山の大会がないことで、道内の開催適地を探し、一般登山者に迷惑をかけないコースやレース方法を研究して実現にこぎつけるなど、新しいスタイルのイベントにも挑戦をしています。

イベント内容の作成、参加者募集、行政への許可申請などは前田さんがほぼ一人で担っていますが、そのイベントを一緒に支えてくれるのがボランティアスタッフの存在。大半はトレイルランニングやトライアスロンに参加する選手たちです。

①前田　博さん
②女性だけのランイベント「スイートガールズラン」（上）
③頂上まで駆け上る時間を競う「天塩岳速登競争」（下）

■ボランティアポイント制導入

「この大会は出場しないから裏方に回りますよ」と声掛けに応えてくれるボランティア仲間がいまは40人ほど。スタッフが足りないときは、彼らがまたその仲間を誘ってくれます。「利益目的でイベントをしているのではないけれど、赤字を出していても大会は続かない。心でつながってくれている仲間がいるからこそ、イベントをまたやろうという元気が湧いてきます」と前田さん。

そうしたボラ仲間対象の「大会ボランティアポイント制」を今年から始めます。主催するイベントの業務内容や活動時間によって参加してくれた人にポイントを付与。一定の点数がたまったら自分が参加する大会の参加料割引や大会時に出店するショップで使えるクーポンに引き換えるという内容。「協力してくれる人たちに少しでも報いられるよう。また年末には貢献ランキングを発表、表彰もして盛り上がろうかな」。

開催者になったことでレースに出場することがなくなり、「僕がトライアスロンをやっていたといってもだれも信じてくれない。まあトライアスロンに燃えていたころは今より10キロ以上痩せていたので、無理もないけれどね」。遊び心もたっぷりに古希を迎えた前田さんはまだまだ意欲いっぱいです。